



The Service Club for the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU

Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs Chartered 1950

c/o YAMANASHI YMCA 3-10-7, Chuo Kofu 400-0032 Japan
Tel 055-235-8543

国際会長 主題：世界とともにワイズメン(Y's Men with the World) キム・サンチュ(韓国)
アジア太平洋地域会長 主題：100年を越えて変革しよう 大野 勉 (神戸ポート)
東日本区理事 主題：私たちは次の世代のために何ができるか? 大久保知宏 (宇都宮)
あずさ部長 主題：道を拓く～愛と協力によって 長谷川あや子 (東京八王子)
甲府クラブ会長 主題：ワイズ魂を堅持し、情熱を持って前進! 石川 和弘

甲府ワイズメンズクラブ

2022年 2月 会報

● 今月の強調目標

TOF・ヒールザワールド



「努力に勝る天才なし」

神山 玄太 君 選

今月の例会案内 (TOF 例会)

日時：2022年2月8日 (火) 18:45～
会場：山梨YMCA 担当：国際・交流委員会

//// //// 巻頭メッセージ //// ////

強調月間に寄せて

国際・交流委員会委員長

ピーター マウントフォード



2月はTOF例会です。TOFはTime of Fast(断食の時)の略で、2月にキリスト教のLent(四旬節)に合わせて。Lentの始まり(Shrove Tuesday)は復活祭の40日前で、昔のヨーロッパの人は家に残った食用油を使い切るためにパンケーキを作っていました。そして、次の日(Ash Wednesday)から復活祭まで、素朴な生活と粗食で過ごしました。この伝統を背景にTOF例会を行います。本クラブはワイズディナーを粗食にして、例会ディナーの予算金額をワイズメンズインターナショナルTOFファンドに寄付します。今年度このファンドはアフリカ・アジア・南米で地域社会・経済を持続的に向上を図って、教育・農業・職育等の八の事業を約130万円で支援しています。

私は国際交流委員長で、他クラブとの交流を担当しています。近隣クラブ交流は主にあずさ部で行います。加えてDBCとIBC交流もあります。DBCは国内で、他区のクラブの交流を目指しています。この制度のもとで、甲府クラブと和歌山クラブはDBC提携を結んで、交流が長年続いています。和歌山クラブの創立は甲府クラブより半年前で2019年12月の70周年記念例会に甲府クラブから7人が出席しました。IBCは同様な形で国際交流を目指しています。甲府クラブと台湾の台南クラブはIBC提携を結んで、交流をしています。2019年7月に台南クラブは仙台のアジア太平洋地域大会へ行く途中に甲府を訪れて、甲府クラブは歓迎会を主催しました。コロナ禍の中でDBCとIBC交流は難しくなって、この2年間事実上中止となりました。とはいえ、活動の再開を期待しています。

プログラム

新型コロナウイルス・オミクロン株
の感染拡大に鑑み、2月例会は

中止

となりました。

《今月のことばについて》～神山玄太

私が少年野球を卒団する際にその年の卒団生に送られた言葉です。それ以来、私の座右の銘として、心に留め、活動しています。よく聞く言葉なので調べてみましたが、誰が最初に言った言葉かはわかりませんでした。常に努力を心がけ、丁寧に活動していきたいと思っています。

1月のデータ

会員数 30名(うち広義会員1名)
例会出席 メン:15名 メネット:1名(小倉香苗)
甲府21クラブ メン:31名 メネット:1名
ゲスト:2名(田口努様・大澤祥子様)
メーキャップ:1名(杉田雄二) 出席率:53%
ニコニコ:36,155円(山梨YMCAへ)

1 月 例 会 報 告

2022年1月11日(火)18:30から岡島ローヤル会館において甲府21クラブとの新年合同例会が開催されました。開会点鐘は甲府21クラブの米長会長、司会は小俣会員で始まりました。ワイズソングは1番のみを斉唱、ワイズの信条に続き、今月の聖句担当は野々垣健五山梨YMCA理事長、ワイズは今年も苦しいこともあるが、みんな一致し、心一つに、これに相応しいコリントの信徒への第一の手紙第一章10節を選んだとの説明がありました。

続いて米長会長の挨拶では次年度は甲府21クラブの佐藤重良さんが東日本区理事に、富士五湖クラブの後藤明久さんがあずさ部長に就任が決まっております、山梨県内のクラブ、みんなが力を合わせ、あずさ部を盛り上げていこうと協力のお願がありました。

両クラブのハッピーバースデー、アニバーサリーに続き日本YMCA同盟総主事の田口努さんの「YMCAとワイズの協働」についての講演。ワイズはYMCA支援、地域社会奉仕、社会奉仕活動を通しての地域貢献、交際的な交流を通じ、生活を豊かにしてい

る、コロナ禍の中たくさんの事業をしているYMCAの活動は非常に重要で、女性が大活躍している山梨YMCAに大きな期待を持っている、女性の就労、社会参画支援のため子育て保育をやっている等々最新の情報を聞くことができ、大変勉強になりました。

諸報告では功刀会員(甲府21)より甲府市民会館での良い眠りが自殺予防にも欠かせないという講演会のPRがありました。

記念撮影、休憩をはさみ、第二部懇親会の開始、健康と恵が支えてくれますよにとの食前の祈りは駒田会員、続いて佐藤次期東日本区理事の乾杯でワイズディナーが始まりました。両クラブの新入会員の紹介の後、夫婦大神楽かがみもちの演芸、賑やかな太鼓や振付に合わせ歌ったり、踊ったり、しばしおいしい料理を食べながら歓談しました。ニコニコボックスの募金、両クラブ合計36,155円は山梨YMCAに寄贈しました。YMCAの歌に続いて、閉会に際し甲府クラブの石川会長がコロナに負けず頑張ろうとの挨拶、閉会点鐘は石川会長、コロナ禍のなか2年ぶりの合同例会は無事に終わりました。

(廣瀬静男)



1 月 役 員 会 報 告

◎1月25日(火) 18:30～19:25 山梨YMCA
◎出席者:石川(和)・田中・渡辺・廣瀬・丹後・小倉・標・仙洞田

【報告事項】

・本ブリテンに掲載事項は割愛します。(編集者)

【協議事項】

▽2月例会について:ミクロン株感染拡大により中止
▽3月例会について: 担当:会員増強委員会、国際交流委員会協力。会員卓話、最新の半導体情報について(仮題)、池上宗遠様の入会式
▽4月例会について:担当:地域奉仕委員会、卓話山梨YMCA福田様、国際交流事業について(仮題)
▽3月8日(火)3月例会について:田中会員の「半導体

事業の現在」についての卓話を予定

▽2月12日(土)第2回あずさ部評議会について:コロナの感染拡大のためZoom開催となった。参加者を確認
▽ナイトフォーラムについて:2月26日(土)20:00～22:00、今回はあずさ部のCS活動がテーマ、あずさ部地域奉仕・Yサービス事業業主査の荻野さん(甲府21)から要請があり、甲府クラブの今年度のCS活動についての報告をした。

【その他】

▽国際会長などの選挙について:石川会長より各候補者の中から投票予定者の発表があり、役員全員異議なしで承認した。

(書記・廣瀬静男)

第11回お正月を遊ぼう

1月9日(日)、甲府駅北口よっちゃばれ広場において、NPO法人甲府駅北口まちづくり委員会主催、甲府クラブ共催の「第11回お正月を遊ぼう」が開催されました。このイベントは古くから伝わる正月行事を中心としたこどもの遊び(独楽まわし・竹馬・羽根つき・めんこ・竹とんぼ・大根鉄砲・紙飛行機・等々)を、今の子どもたちにも体験してもらおうという趣旨で始まったもので、甲府クラブでは第1回から参画しています。

当日は晴天に恵まれ、午前10時からの開会式には石川会長も共催者の代表として挨拶しました。甲府クラブは「紙飛行機飛ばし」を担当、また渡辺会員が飯田地区自治会有志として「大根鉄砲」他を担当しました。

昨年はコロナの影響で中止となり、今年はいつもとより規模を縮小しての開催となりましたが、好天ということもあり、かなりの人出で、絶えることなく親子連れが訪れ、昼食の弁当も交替でとるほどの盛況でした。

参加者は石川(和)・秋山・標・杉田・仙洞田・田中・丹後・廣瀬・マウントフォード・渡辺、標メネット、丹後コメントでした。



お知らせ

▼今年の山梨YMCAチャリティーランは5月21日(土)に開催することが決まりました。昨年11月以来、半年後でワイズ年度としては2回目となります。

▼昨年秋から開催されている、「Y'sナイトフォーラム」の4回目が2月26日(土)に開催されます。今回はあずさ部のCS活動がテーマですので、こぞって参加しましょう。

これからの行事予定

2月12日(土) あずさ部第2回評議会(Zoom)

2月22日(火) クラブ役員会

2月26日(土) Y'sナイトフォーラム(Zoom)

3月 8日(火) 3月例会

(仮称)甲府やまなみクラブ第1回仮例会

新型コロナウイルス・オミクロン株の感染が117名と県内過去最多となった1月14日(金)、初めての仮例会を開催しました。甲府クラブなどで実施している“一般的”な式次第で進めました。“卓話”に相当する部分は、仙洞田がパワーポイントで「ワイズメンズクラブの歴史と組織」と題して、ワイズ国際協会の創立、日本のクラブの歴史、国際やアジア太平洋地域の現況、そして東日本区、あずさ部等の組織と現況を説明しました。以前、準備会の段階で東日本区の「会員ハンドブック」を配布してあったので、これを持参してもらい、テキストにしました。

また、ワイズソングやYMCAの歌はYouTube(元沖縄那覇クラブの屋良政旦さんのチャンネル)のカラオケをスクリーンに投影して歌いました。

仮例会終了後、感染に注意しつつ簡単な食事をしながら、意見交換を行いました。

なお、新クラブにおいては、2020年に開催された東日本区の「Change!2022シンポジウム」の際、提案された例会プログラム案に近いものになりたいと考えています。次回はワイズメンズクラブの主な事業(活動)について学ぶ予定です。出席者は6名でした。

(仙洞田安宏)

あずさ部エクステンション委員会報告

あずさ部 EMC 事業主査 標 克明

1月28日19:00からZOOMを使って、エクステンション委員会があずさ部キャビネット、他各クラブ会長、オブザーバーなどに声かけがあり、参加者8名でおこなわれました。

長谷川あずさ部部長の挨拶の後、前日の1月27日にやはりZOOMを使って行われた、東日本区EMC委員会の報告が菰刈委員長からありました。

そして2月26日に予定されている、ナイトフォーラムについて話がありました。今回はあずさ部が中心となりCS活動のパネルディスカッションを甲府21クラブの荻野CS事業主査が行うという事で説明がありました。甲府クラブからは1月の「お正月を遊ぼう」と「ラ・ロの会」の二つの活動について、仙洞田さんに原稿を書いてもらい、標が撮影した写真と動画も使ってもらうように提出しました。

エクステンションについて委員長から説明があり、仙洞田さんが進めてくれている新クラブ設立について詳しく説明がありました。会議参加者からは、設立がより具体的になったことを喜んでいる声が聞こえてきました。甲府クラブからの参加者は標でした。



談話室

「コロナ禍で思う事」

中澤 大

一昨年初旬から始まったこの所謂「コロナ禍」であるが、果たしてどういった終息を迎えるのだろうか？ ヒントは前世紀最大のパンデミックである「スペイン風邪」にあるのかもしれない。スペイン風邪は一説には全世界で1億人以上が犠牲になった(当時の世界人口約18億人)とも言われ、日本でも約45万人が死亡した。当時も現代と同じようにマスク着用と、うがい手洗いを促すポスターが張られ、街を行き交う人々も皆マスクを掛けている写真が多く残っている。黒いマスクが流行っていた点も現代と同じなのが興味深いが閑話休題。

では、世界中にパンデミックを引き起こした「スペイン風邪」はどうやって終息したのであろうか？ それに関しての明確な答えは未だ出ておらず不明のまま、結論として3年掛って「自然終息」したのである。ただ、終息によって「スペイン風邪」のインフルエンザウイルスは死滅したかと言えばそうでなく、誰しもが耳にしたことがある「A香港型インフルエンザ」等に弱毒化変異して生き残っている。ウイルスは急速で過度な変異が引き起こされると、自己増殖回数に限界が生じて自壊するといった「エラーカタストロフの限界」という理論があり、8月末からの急激な日本における感染者の減少は、感染力が非常に強力な「デルタ株」のエラーカタストロフ限界だった可能性が有り、終息は近いのかもしれない。

ただし、日本は感染減少傾向でも世界に目を向ければ感染が増加している国も多く、外国でのデルタ株並みの感染力をもった変異が今後無いとは言えない為、引き続き慢心せず衛生管理をしていくことが大事である。因みに「我々はコロナに打ち勝った！」と宣言した諸外国の国は必ず感染再拡大の憂き目にあっている。

※編集子註:本原稿は、昨年12月14日に入稿したものです。

2月アニバーサリー

神山 玄太・奈緒子(2日) 渡辺 徳之・広子(21日)

2月 ハッピーバースデー

メン:廣瀬 静男(18日) 秋山 仁博(26日)
メネット・パートナー:金丸 美香(13日)
田中 千里(24日) 宮川啓一郎(25日)



ワイズメンの皆様、長い間
ありがとうございました。

山梨YMCA 総主事 露木淳司

私が総主事になったのは2010年の4月です。それから4年の任期を三期務めさせていただきました。一期目はまさに試練の4年でした。知識も経験も足りない未熟者でしたので、今以上に多くの人に迷惑のかけ通しでした。その2年目には東日本大震災が起り、たった4人の職員にできることは限られていました。将来展望は全く開けない状態で、ただただ不安な日々を過ごしていました。

2014年に公益財団法人となり、学童保育が甲府市の委託を受けるようになりました。デイサービスぶどうの木が軌道に乗り、新会館建設の準備が始まりました。ようやく未来に希望が持てるようになった二期目でした。

そして、2018年からの三期目は児童発達支援事業が拠点を増やし、一気に基幹事業に成長しました。初めて年間収入が一億の大台に乗るようになりました。20年には新会館が竣工し、常勤職員も20名を超えるまでに成長しました。コロナ禍の中での退任になり、次期総主事への宿題はいっぱいあります。ただ、それは必ずしも負担ばかりでなく、未来への希望であり、夢という名の置き土産として受け止めていただければ幸いです。この3月でYMCAに就職して40年になります。これは奇しくも旧約聖書の出エジプト記でイスラエルの民が旅をする年月と同じです。横浜YMCA時代にも節目節目にいろいろな事件が起こり、その度毎に、その後の人生を変えるような、人との出会いがありました。今こうしてまた、人生の大きな節目を迎えるにあたり、実に感慨深く過去を振り返るようになってきました。「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」と聖書は言います。そして「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる」と言われている通りで、何も思い煩うことなく、今後も神のみ旨に身を委ねて生きていきたいと願っております。

総主事としては、あとひと月のお付き合いとなりました。皆様本当に長い間お世話になりました。改めましてここに心より感謝の意を表します。ありがとうございました。立場は変わりますが、いつまでもYMCAに連なる一人であり続けたいと思っています。自分にできる範囲で、できる務めを捧げてまいる所存であります。